

曾祖父を越えるために



「しっかり歯を磨きなよー。」

小さい頃から、母に言われている。むし歯になりたくない私は、疲れていても、面倒くさくても寝る前、朝食後、昼食後の3回は、必ず3分は歯を磨くようにしている。この他にむし歯にならないために私は気をつけていることは何もない。

「たいへんいい歯だね。」と歯科検診で校医の先生からそう言われて私はとても驚いた。

「言う人を間違えてない？」と心の中で疑ったぐらいだ。

私は、小さい頃から固い物を食べ、麦茶などの甘くない飲み物しか普段の生活になかった。当然、甘いジュースや炭酸飲料などの飲み物はほとんど口にしなかったし、あごが痛くなるほどよく噛んで食べていた。

このところずっと私は毎日鏡を見て歯を磨いている。左の下の端をスタートに横へ横へ。それから歯ブラシのターンの時、磨き残しがないように重ねて磨くことも忘れない。歯を磨いた後は、歯は白くなるし、とてもすっきりする。

私の歯の何が、なぜ、「よい歯だね。」と評価されたのか。疑問に思った私は、家に帰り、父と母に聞いた。

「曾祖父が丈夫だからじゃない？」と言われた。

私の曾祖父は今年で92歳になった。だいぶ年のように思われるかも知れないが、何とすべて自分の歯である。今でもりんごは丸かじりするし、飴を歯で割ったりして、とにかく普通以上に丈夫である。これは驚異である。そこで曾祖父に尋ねてみた。

「すべて自分の歯でいられる秘訣は？」と。すると、

「毎日しっかり歯を磨く。」と曾祖父は言った。

私は、曾祖父に倣ってこれからもますますしっかりと磨いていきたい。

私は、3年間バドミントン部に所属している。シングルスもダブルスも両方できるが、どちらかと言えば、ダブルスが好きである。なぜなら、心細くないし、コートに2人いるので余裕をもってプレーできるからだ。ところでこの競技は、軽い水鳥の羽製のシャトルを、軽いチタンのラケットで打ち合う。中でもコートの後方まで飛ばすクリアやネットに沿って落とし込むヘアピンを打ち返すとき、必死でダッシュを繰り返す。そんな時、知らぬ間に私は奥歯をぐっと噛みしめているのに気付くことがある。大変な力を振り絞って1点を取っていくのだ。奥歯は私の大好きなバドミントンを口の奥で支えてくれている。これは感謝を込めて磨かなければと思う。

これからもしっかりと歯を磨き、曾祖父を越えることを私の新たな目標にしたい。

目指せ「8020」！

